

海上の森講座

海上の森の意義、里山発見（現地実習）

日時：平成20年8月2日（土） 10:00～15:00

講師：木村 光伸（名古屋学院大学人間健康学部教授）

概況



まず午前中に50分程度の講義を行い、里山とは何かについて学んだ後、2時間程度海上の森を歩きました。そして午後の講義では海上の森の現状をふまえた上で、海上の森の今後をどうしていくかについて意見交換を行い、その後、世界の自然の中の日本の森、日本の中の自然の中の海上の森という視点で、スライドをみながらお話をしました。

【里山学を实践するために】

里山とは、農山村集落の後背地に展開する有用林と考えています。日本人は、自然を壊しながら生きてきました。里山は、この「人の手」が生活の中で生物の生態系を創ってきた場所と言えます。最近では、奥山（人が利用していない森林）と里山の区別がつかなくなっています。これは、日本の林業・林学が破綻している証拠です。

近年、里山が美化されているような表現がされますが、自然林と二次林は、人工林とは異なり、本来は人が手を入れなくても自浄作用でよくなることを忘れてはいけません。森が荒れていると言われますが、現在、森林は最も回復している時期なのです。人が利用しすぎたために過去に禿山ができたという側面を忘れてはなりません。

里にはかつて耕作地としての価値がありました。里で生活のため耕作しなくなった今、生甲斐の場として里を利用すれば良いのではないのでしょうか。

【意見交換】

海上の森の場合、崩壊する山体が生物の多様な生活を形成しています。それが生

物の多様性に富み、小さな生態系がパッチ状になっている状況を創っています。つまり、どの地域も生物多様性の一要因となっているのです。保全と活用のキーワードは「海上で守るべきもの」、「誰が守るのか」、「継承される経験」です。これらをふまえ、海上の森の今後をどうしていくかの意見交換を行いました。以下は受講者からの意見（一部抜粋）です。これらをどのように活かしていくか、なかなか難しいですね。

- ・COP10では海上の森を里山のアピールに用いては？
- ・海上の森の顔を作って、もっとアピールするのがいい
- ・サカキとヒサカキを海上の森から採取して出荷しては？
- ・海上の森に入山して採取し持ち帰ることを許可してもらうくらいの余裕がほしい
- ・海上の森の土地をかりて、見本的に森林施業を行ったらどうなるかを示したい
- ・ファッションや癒し、祭りをテーマにイベントを行う助成金をだしてはどうか